

CT検査におけるヨード造影剤使用に関する説明書

当院では造影剤を使った検査を受けられる方に、造影剤検査のご説明いたします。
全身状態や検査の内容により、検査担当医の判断で造影剤を使用しない場合もあります。

《ヨード造影剤について》

1. ヨード造影剤は血管や臓器およびその周辺の構造をより明瞭に映し出す薬剤で、病気の有無や性質、進展範囲などをより詳しく評価するために使用します。検査部位によっては、造影剤を使用しないと極めて重大な病変が見逃されてしまう可能性があります。
2. 造影剤の注射中に、全身が熱く感じるがありますが、異常ではありません。熱さは、徐々になくなります。腎機能が正常であれば、通常2時間で60%が、24時間後にはほぼ全量が尿中に排泄されます。
3. 造影剤は基本的には安全な薬剤ですが、下記のような副作用が生じることが知られています。これらの副作用は予測不可能で、以前に造影剤で副作用の無かった方でも生じることがあります。

《副作用について》

すべての方に安全な薬剤は残念ながらなく、造影剤も一定頻度で副作用が起こり、予測できることは出来ません。しかし、副作用が生じる可能性が高い体質がないか、造影剤の影響を受けやすい病気がないか、前もって確認することで安全性を高めることができます。問診票にお答え下さい。

アレルギー体質の方は副作用の発現率が約3倍高く、特に気管支喘息の方は約10倍高いと言われております。そのため、気管支喘息の方は、造影剤を使用できないこともあります。

1. 軽い副作用： かゆみ、発疹、発赤、悪心、嘔気
これらの副作用は、3%前後の頻度で起こりますが、通常は治療を必要とせず、検査当日でほぼ治まります。水分を多めに飲んで下さい。
2. 重篤な副作用： 血圧低下（ショック）、意識消失、痙攣発作、腎不全、息苦しさ・嘔声（喉頭浮腫）
発生する頻度は、0.004%（2.5万人に1人）とわずかですが、治療が必要で重症になる可能性もあります。当院では救命センターと連携し、速やかに対応できる万全の体制で検査を行っています。他の多くの薬剤と同様、ごく稀に死亡例（0.00025%、40万人に1人）の報告もあります。
3. 遅発性副作用： かゆみ、発疹など
5%前後の方に検査後1時間から数日で発生することがあります。通常は治療を必要としませんが、症状が強いなど心配な時は、主治医にお申し出下さい。
4. 血管外漏出： 注射する際に造影剤が血管外に漏れて（約0.3%、300人に1人）、注射部位の腫れや痛みを伴うことがあります。通常は時間がたてば吸収されるので心配ありません。多く漏れた場合などで、処置が必要となることもあります。

《併用注意薬剤について》

一部の糖尿病治療薬（ビグアイド系薬剤）では、ヨード造影剤との相互作用で、乳酸アシドーシスと呼ばれる重篤な副作用を起こす可能性があり、**併用注意**となっています。これらのお薬は、**造影剤投与の前後2日間、服用を中止**する必要があります。①の問診票に示したお薬を飲んでいる場合は、主治医に確認して、服用を一時的に中止して下さい。ただし、緊急の場合などで、ヨード造影剤投与がどうしても必要な場合には服用中であっても検査を行うことがあります。